

第六十二回 全日本書初め大展覧会・授賞式

第62回全日本書初め大展覧会・授賞式は、2月22日（日）東京・千代田区の日本武道館において、受賞者・来賓・関係者合わせて約1300名が出席して盛大に開催された。

授賞式では1月5日に日本武道館大道場で行われた席書大会の作品2077点、国内外からの公募作品1万569点、計1万2646の中から選ばれた内閣総理大臣賞をはじめとする特別賞、優秀・優良団体賞の受賞者約240名が出席した。

栄えある内閣総理大臣賞を受賞したのは、西川董さん（神奈川県横浜市立日吉台小学校4年）、日本武道館大賞には、荻野愛菜さん（埼玉県所沢市立富岡中学校1年）が選ばれた。



内閣総理大臣賞を受賞した西川董さんと作品

◇授賞式

授賞式は午後1時から日本武道館大道場で行われた。はじめに高村正彦大会会長（日本武道館会長）が挨拶に立ち、「受賞された皆様、誠におめでとうございます。書初め大展覧会は日本武道館竣工の翌年に第一回が開催され、本年度第六十二回を迎える、新春恒例の由緒ある大会です。各賞に輝いた皆様は今回の受賞を励みに、一層精進され、来年も素晴らしい作品を書き上げられますことを心より期待いたします。結びに、本展覧会のために、ご指導された先生方、また、ご尽力いただいた関係の皆様方に心から感謝を申し上げ、ご挨拶いたします」と述べた。

次に、田村学^{まなぶ}文部科学省初等中等教育局主任視学官が、「本展覧会には、児童生徒や学生の皆さんの素晴らしい作品が数多く出品されたと伺っております。皆さんが日頃から頑張ってきた成果であるこれらの作品は、書写、書道の水準を一段と向上させ、書の伝統と文化の継承・発展に大きく寄与するものです。今後も皆さんが、書写、書道に親しむことを通して、想像力や表現力を伸ばし、一人一人の個性や可能性を最大限に発揮しながら、心身ともに健全で豊か



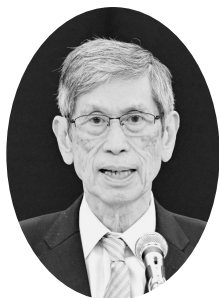
加藤東陽大会審査部長



山谷えり子参議院議員
(書道国会議員連盟副会長)



田村学文部科学省
初等中等教育局主任視学官



高村正彦大会会長
(日本武道館会長)

な未来を切り開いていかれることを心から期待
しています」と、松本洋平文部科学大臣の祝辞
を代読した。
続いて、書道国会議員連盟副会長・山谷えり
子参議院議員（日本武道館常任理事）が、「本
日、表彰の栄に浴されました皆様、おめでとう

ございます。書道の世界は本当に美しく力のあ
る世界です。素晴らしい言葉を書き記すことに
よって自分自身も清められ高められ、また、発
想力や忍耐力など様々な精神性も高められます。
書道国会議員連盟は、書道界の皆様と『書道』
のユネスコ無形文化遺産登録を目指してきまし



授賞式風景



展示会場（中道場）で作品と記念撮影



作品を鑑賞中の山谷先生と加藤審査部長

◇展覧会
午前10時から午後4時まで日本武道館中道場
で展覧会が行われた。開場には、内閣総理大臣
賞をはじめ特別賞受賞作品325点、また、特別出
品として大会審査顧問等の先生方の作品12点が
展示された。
開場と同時に受賞者や家族・関係者が来場し
て、自分の作品と並んで記念撮影をする光景や
受賞作品を觀賞する姿がみられ、大盛況となった。

だが、いよいよ今年、叶う予定です。日本の書
道を国内外の皆様にも更に広め、また学校教育で
も更に充実するよう努めてまいります。本日の
表彰を大きな力、希望として、先生と一緒に切
磋琢磨して学び合うお友達やご家族の皆様にも感
謝しながら、これからも美しく力のある書道の
世界、道を歩み続けていただきたいと思います」と
と祝辞を述べた。
表彰は内閣総理大臣賞から始まり、受賞者の
西川董さんに高村大会会長から賞状と楯が授与
されると、開場からは一際大きな拍手が送られ
た。引き続き、厳粛な雰囲気の中で日本武道館
大賞、文部科学大臣賞などの特別賞受賞者が表
彰された。
すべての表彰が終わり、加藤東陽第62回展審
査部長が審査講評を述べた（詳細は14頁）。最
後に、受賞者を代表して西川董さんが謝辞を述
べ（詳細は14頁）、閉式となった。

受賞者代表謝辞

神奈川県横浜市立日吉台小学校四年

西川 董

この度は、第六十二回全日本書初め大展覽会において、内閣総理大臣賞という耀かしい賞をいただき本当にありがとうございます。受賞の知らせが届いた日は忘れられません。私は学校から帰ると「何かお知らせできないか」と、ポストを確認するのが日課です。あの日、武道館から届いた封筒に厚みを感じた瞬間、胸が高鳴りました。急いで開けると「内閣総理大臣賞」という文字が目飛び込んできました。あまりの嬉しさに母と抱き合っていました。知らせを聞いた父や親戚の皆さんも自分のことのように喜んでくれたことが何より心に残っています。

席書は初めてで、時間内に作品を仕上げることが私には難しい挑戦でした。とにかく時間内に二枚を書き上げる練習を繰り返しました。字を書く時に意識したことは、紙に対して真っ直ぐ構えることです。そして、一画目は「全てを決める大切な一本」という気持ち



川端達夫大会副会長に読み上げた謝辞を手渡す西川さん

で書き始めるようにしました。作品集や字典、古典を参考にし「どうしたら素敵になるのか」、作品を壁に貼っては、母と二人で修正を繰り返して、私余りの作品を作りました。構成が決まり、余白も丁度良く書けるようになったのは前日。練習通り書けるか不安が大きかったのですが、あとは自信を持って書こうと気持ちを強くしました。

参加できる嬉しきであまり眠れないまま迎えた本番。いつも通り深呼吸をして心を落ち着かせ、それから気がつけたいことを独り言で確認しながら夢中で書き上げました。小さい頃、毎日のように北の丸公園で遊んでいた私にとって、日本武道館は身近で特別な場所です。オリンピック選手が入っていく格式高い場所、その武道館で、全国で書道を頑張る仲間と一緒に筆を走らせた時間は、とても楽しく大きな達成感がありました。

私は書道が好きです。筆に墨を含ませる時に、自分も静かな世界に吸い込まれるような不思議な感覚になります。そして心が穏やかになります。字を書く時間が好きなのはもちろん、納得のいく作品が書けた時の嬉しさや、賞をいただいたり、お友達や家族に褒めてもらえたりすることが、書道を続ける力になっています。そして今回の受賞も、これからの私に大きな応援をいただいた気持ちです。上手く書けず辛いくなるときもありますが、素直な心を大切に、これからも一枚一枚積み重ねていきます。

結びになります。このような素晴らしい大会を開催してくださった主催者の皆様、審査をしてくださった先生方、お忙しい中お越しいただいたご来賓の方々、そして運営に携わってくださった全ての関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。受賞者代表としてお礼の言葉とさせていただきます。

審査講評

第六十二回展審査部長

加藤東陽

第六十二回全日本書初め大展覽会において、栄えある賞に輝いた皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

今年は、全国各地より、席書の部と公募の部を合わせて一万二千六百四十六点の力作が寄せられました。書に親しみ、筆を持つ喜びを味わいながら、すばらしい作品を出品されました皆さんに心から敬意を表します。

審査会は、日本武道館において、「席書の部」を一月六日に、「公募の部」を同十八日に、公平かつ厳正に、特に上位賞の選出においては投票によって行われました。

その結果、内閣総理大臣賞に、席書の部・西川董さん、日本武道館大賞に、公募の部・荻野愛菜さん、文部科学大臣賞に、席書の部Ⅱ堀澤橙さん、松本うたさん、公募の部Ⅱ金子葵さん、大澤葵翠さんをはじめ、各賞が決定いたしました。受賞された皆さん、誠にありがとうございます。

席書・公募共に、年々作品のレベルが向上しており、審査にも一段と力が入りました。特に、上位の賞の決定にあたっては、実力が伯仲して一回目の投票では決まらず、決選投票になったことも申し添えておきます。

今回展の特色として、次の三点を挙げます。まず一つは、今年も小・中学生の部門は、全学年にわたって全国各地から多数の出品があり、嬉しく思

ました。そして、毛筆表現の豊かさや丁寧さなど、力作が多い中で、特に墨色の濃淡や紙質において効果的な作品が多岐にわたっていたことが印象的でした。このことから全国的に筆のつながりを持つ書初め展であることを改めて実感いたしました。

二つめは、高等学校と大学の部共に、臨書作品が多いことは昨年と変わりませんが、今年は創作作品が増えたということ。篆書・隸書や行書・草書などを中心とした視覚性の強い熱意ある作品が多くありました。古典を十分学習して練度のある個性が光る作品は大変魅力的です。ぜひ仮名や漢字仮名交じり作品にも挑戦されることを期待いたします。

三つめは、席書の部において、今年も幼児から高齢者（八十四歳）の参加があり、生涯学習の視点からも活気に満ちていたこと、そして、公募の一般の部においても、韻致の高い作品が数多くあったことです。

さて、今年の十二月頃には、日本の書道が「ユネスコの無形文化遺産に登録」されるのではないかと報じられ、注目されています。これからは本展覽会が、書道文化の歴史と伝統を継承していくと共に、時代に寄り添って一層の発展も強く求められてきます。皆様と共に歩んでまいりたいと思います。また、本展覽会の参加者の中から、令和八年度の日中青年学生交流事業参加候補者として、計五名の高校・大学生が選出されたことをこの場を借りてご報告申し上げます。

来年も、全国から、多数の快作にお会いできることを期待し、審査講評といたします。

第62回

全日本書初め大展覽会

内閣総理大臣賞

席書の部 神奈川県 横浜市立日吉台小学校 四年 西川 董

元日の朝
小四 西川 董

日本武道館大賞

公募の部 埼玉県 所沢市立富岡中学校 一年 荻野 愛 菜

歴史を紡ぐ
中一 荻野 愛 菜

文部科学大臣賞

席書の部 東京都 都立南多摩中等教育学校 三年 堀澤 橙

温故知新
中三 堀澤 橙

席書の部 千葉県 県立国府台高等学校 三年 松本 うた

夢回春草池塘外詩
在梅華 煙雨間
小五 金子 葵

公募の部 埼玉県 羽生市立羽生東小学校 五年 金子 葵

夢と希望王
小五 金子 葵

公募の部 東京都 大東文化大学 三年 大澤 葵 翠

清陰夜多天 海行雲登身空秋
月空情謝翠華 繁亦能高靜新人只
長空如斯多樓耐可乘風翻
葵翠